白い雲に想いをのせて

鈴夜 音猫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
白い雲に想いをのせて

【Ｎコード】
Ｎ７５５６Ｌ

【作者名】
鈴夜　音猫

【あらすじ】
夏。青いキャンバスに描かれた白い一本の線を見つめ、君は夢を語った――

――君がいた夏。それは私の確かな記憶。

真っ青なキャンバスに描かれた一筋の白い線。

だんだんと弛み、薄くなっていくそれを見つめ、君は私に夢を語った。

「私ね、生まれ変わったらあの飛行機雲になりたいの」

サラリと長い黒髪を風に靡かせて、微笑む君の横顔はどこか寂しげで。けれど息を飲む美しさがあった。

君が語ったのが”将来なりたいもの”ではなく”生まれ変わったらなりたいもの”だったこと。

その意味を私が知った時、何もかもが手遅れだった。

知らせを受けて駆け付けた私を、君は無言で迎えてくれた。

真っ白なベッドに横たわるその姿は、ただ眠っているだけのようだったけど。

もう君の声も、君の笑顔も、君の温もりも、私は感じることができないんだと知り、涙が溢れた。

あれから時が流れた。

もう私は君の顔さえも写真を見ることでしか思い出せない。

ねぇ、今もう一度。たった一度でも君に会えたなら、私は真っ先に君に謝りたい。

あの日、横たわる君に感じた”死”という恐怖に、私は君に最後に触れる機会を逃してしまった。

あんなに優しく笑ってくれていた君を、一瞬でも恐いと感じてしまったこと。

ごめんなさい。

弱い私は君に酷いことをしてしまった。

ごめんなさい。

あんなに一緒にいたはずなのに、最期の時に逃げ出して。

そしてもう一つ……

私と友達でいてくれてありがとう。

もう君には会えないけれど、いつか聞いた君の夢。
空に走る一本の飛行機雲に私は精一杯の笑顔を向けた。

【Ｅｎｄ】

（後書き）

ここまで読んでいただきありがとうございますm（__）m

今回の作品は、作者の実体験をもとにしています。
中盤から最後にかけてが一番書きたかったところで、亡くなった、
作者の祖母に宛てた言葉です。

しかし、大好きだった祖母のことを考えるだけで、申し訳ない想い
に支配され、上手く言葉にできてないところが多々あります。

ズグズグですが、これが私が今、表現できる最大限のことです。

自己満の作品ですみませんm（__）m

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7556l/

白い雲に想いをのせて

2010年10月13日04時29分発行